

物語文 5		詩 3	説明文 3		作文 1	物語文 4		説明文 2	物語文 3		
19 コスモスの海で(2)	18 コスモスの海で(1)		タイムテスト(3)	17 坂の初夏・けしきム	16 カエルの世界(2)	15 カエルの世界(1)	14 作文(1)	13 ソウのていへんまのほな(2)	12 ソウのていへんまのほな(1)	11 食虫植物のひみつ	10 ヨースケくん(2)
◆ジジの使い方	◆ていねいな言い方 ☆表現を味わう	☆詩の主題		◆反対の意味のことは	☆段落①	◆漢字の部首	◆漢字の置き方	☆性格をとらえる	◆くわしくすることは	◆文のほね組み ◆文の四つのかた	◆文のほね組み
83 ~ 86	79 ~ 82	77 ・ 78	73 ~ 76	69 ~ 72	65 ~ 68	61 ~ 64	57 ~ 60	53 ~ 56	51 ・ 52	47 ~ 50	43 ~ 46
/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/

物語文 3	詩 2	説明文 1		詩 1	物語文 2		物語文 1		
9 ヨースケくん(1)	タイムテスト(1)	8 雨あがり・ひまわり	7 人はなぜ服をきるか(2)	6 人はなぜ服をきるか(1)	5 すずめ・芸術品	4 のんちゃんとかしぎな花束(2)	3 のんちゃんとかしぎな花束(1)	2 かおるのたからもの(2)	1 かおるのたからもの(1)
☆気持ちを読み取る		☆詩について	◆つなぎことば	☆話題をとらえる	◆こそあひことば	◆漢字の画数 ◆漢字の筆順	☆場面をとらえる	◆国語辞典の使い方	☆あらすじをとらえる
39 ~ 42	37 ・ 38	33 ~ 36	29 ~ 32	25 ~ 28	21 ~ 24	17 ~ 20	13 ~ 16	9 ~ 12	5 ~ 8
/	/	/	/	/	/	/	/	/	/



作文2	説明文6		説明文5	物語文6		説明文4		ローマ字
	28 作文(2)	27 拝啓・手紙です(2)	26 拝啓・手紙です(1)	25 頭のはたき	24 おかあさんだいっきらい(2)	23 おかあさんだいっきらい(1)	22 アメリカ・インディアンはうたう(2)	21 アメリカ・インディアンはうたう(1)
◆いろいろなことば②	◆いろいろなことば①	☆要旨をとらえる	◆同訓異字	◆同音異義語	☆主題をとらえる	◆送りがな	☆段落②	◆漢字の音と訓
134 135	126 129	117 120	109 112	105 108	101 104	99 100	95 98	87 90
/	/	/	/	/	/	/	/	/
/	/	/	/	/	/	/	/	/
/	/	/	/	/	/	/	/	/
/	/	/	/	/	/	/	/	/
/	/	/	/	/	/	/	/	/

第1回 物語文1
かおるのたからもの(1)

漢字を書こう。



ねらい

◆あらすじをとらえる

物語文を読むときには、お話の中で、だれがどんなことをし、どんなことが起こったかを、お話に出てくる順にとらえます。

はじめに起こったこと

→前のこととむすびつけて考える

次に起こったこと

→前のこととむすびつけて考える

さいごに起こったこと

◆たしかめながら読みましょう

- ・だれが、どうしたか。
- ・どんなことが起こったか。
- ・前のことをうけて、だれが、どうしたか。
- ・前のことをうけて、だれが、どう思ったか。

屋	急	区	君	発	意	育
戸 9 ヤ オウ	心 9 いそぐ キョウ	匚 4 ク	ロ 7 まみ クン	へ 9 ハツ	心 13 イ	月 8 はそそだつ はぐくむ
(1) 山田クンの家へ行く。	(2) ハツイクがよい。	(3) イソいで行こう。	(4) ホンヤさんの店先。	(5) 線を引いてクギる。	(6) キミとぼく。	(7) イケンをのべる。

文章たんけん

① 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

「月曜日には、ゼッタイわすれないでもってきてよ。じゃ、さようなら。」

土曜日の放課後、杉田くんが平野かおるのかたをばんとたたいて走っていききました。

「うん、さようなら。」

かおるは、ちよっと手をあげてこたえながら、ああ、もう三日もつづけて、かおるは杉田くんとのでやくそくをやぶったのです。

② 杉田くんからかりていた本をかえす日がすぎたのに、かおるはその本をもつてくることができなかつたので

どうしてかという、弟のたけしが杉田くんからかりた本に、クレヨンでいたずらがきをしてしまったのです。

——いい方法はないかしら。クレヨンでいっぱいたずらがきをした本が、もどおりになる方法はないかしら。

走っていく杉田くんのあとから、

③ 歩きながらかおるは考えま

でも、このあいだ思いついたことしか頭にはうかんできませんでした。

一、けしゴムでいねいにいたずらがきをけること。

二、杉田くんからかりたのおなじ本を、おとうさん

いちはんはじめに、かおるはこの二つのことを思い

つきました。そして、実行してみたのです。

一の方法は、むりだということがすぐわかりました。クレヨンは、けしゴムではきえなかつたのです。こ

すればこするほど、よけいにきたなくなりました。それに、いたずらがきがあちにもこちにもあつて、ぜんぶはとでもけすことはできませんでした。

なかでも、きれいな絵の上に、黒いクレヨンでめちやくちやにまるをかけたところをみたとき、かおるは

とてもだめだと思いました。



問い1 ⑤ ⑤にあてはまることばとしてもっともよいものを次のア〜エからえらび、記号で答えなさい。

- ア よかつたな イ うれしいな
ウ こまっちゃつたな エ ざんねんだな

問い2 ① ①「杉田くんとのでやくそくをやぶった」

②「杉田くんからかりた本をかえす日がすぎたのに、かおるはその本をもつてくることができなかつたので」

Diagram showing boxes for '杉田くんから' and 'という' with dashed lines for text entry.

③「かおるは、ちよっと手をあげてこたえながら、ああ、もう三日もつづけて、かおるは杉田くんとのでやくそくをやぶったのです。」

Diagram showing boxes for 'が杉田くんの' and 'に' with dashed lines for text entry.

問い3

Diagram showing boxes for 'を' and 'で' with dashed lines for text entry.

④ ④にあてはまることばとしてもっともよいものを次のア〜エからえらび、記号で答えなさい。

- ア よろよろ イ とほとぼ
ウ すたすた エ うろろう

問い4 ②「かおるは考えました」とありますが、何について考えたのですか。

問い5

③「とてもだめだ」とありますが、どんなことを「だめだ」と思ったのですか。次の(1)にあてはまることばを文中から書きぬきなさい。

Diagram showing boxes for text entry.

十二支——十一

「ぼくは〇〇年うまれ」なんていうときに使う「十二支」の動物が集まってきたよ。でも来ていない動物と、よぶんな動物がいる。それは何だろう？



来ていない動物
よぶんな動物

第2回 物語文1 かおるのたからもの(2)

◆国語辞典の使い方

- 国語辞典を使って、ことばの意味を調べられます。
- (1) ことばは五十音順にならんでいます。
 - (2) 形がかわることばは、言い切りの形でのついでに、**〈れい〉** 食べました↓食べる

(3) 濁点や丸のつく字で表す音は次の順でなっています。

- ① 清音(あ・さ など) ↓ ② 濁音(が・ば など)
- ↓ ③ 半濁音(ぱ・ぼ など)

(4) 小さい字で表す音(っ・ゃ など) は大きい字で表す音の前にならんでいます。

※辞典によってはちがうこともあります。

- (5) のばす音(ー) は、前の音によって「ア・イ・ウ・エ・オ」として考えます。
- 〈れい〉 コーヒー ↓ コオヒイ

漢字を書こう。

横
木 15
オウ
よこ

拾
イ 9
ひろう

表
衣 8
ヒヨウ
おもひ
あらわす

章
立 11
シヨウ

題
頁 18
ダイ

注
イ 8
チュウ
そまぐ

動
カ 11
ドウ
うごかす

- (1) うらとオモテ。
- (2) 茶わんに湯をソソぐ。
- (3) お金をヒロウ。
- (4) プンシヨウを書く。
- (5) 手足をウゴかす。
- (6) ダイメイを考える。
- (7) 道をヨコギる。



文章たんけん

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

杉田くんからかりた本に弟がいたずらがきをしてしまい、かえせなくなつたかおるは、二つめの方法としておなじ本をおとうさんに買ってきてもらおうとします。

二の方法は、はじめうまくいきそうでした。

おとうさんにたのむと、おとうさ

んはかんたんにひきうけてくれたからです。

「ひどいことをしてくれたな。たけしのしわざにしてもひどいもんだ。」

これから気をつけないとたいへんだよ。」

おとうさんは「ううと、弟のたけしにいたずらがきをした本をみせながら、

「本にかいてはだめだぞ。わかつたか。クレヨンでかくのはここに紙だけだよ。本はだめ。」

と、なんともいいました。それからかおるに、「あした本屋さんにてのんでこよう」とやくそくしてくれたのです。



ところがつぎの日、まっていたかおるにおとうさん15
がもってきたのは、よくないしらせでした。

「だめだったよ、かおる。あの本は、いま品切れでしばらく本屋さんでは手にはいらないそうだ。」

おとうさんがこういったとき、二ばんめの方法もきえてしまいました。

それからさんざん考えてうかんできた、三ばんめの方法は、杉田くんにあやまって、クレヨンでいたずらがきをしたままの本をかえすということでした。

おとうさんやおかあさんにそうだんしても、それよりほかにいい方法はでてきませんでした。

「おなじ本をもっているひとで、それをゆずってくれそうなのをさがしてみるよ。それで手にはいいたらあらためて杉田くんにいたずらがきのないのをかえせばいい。いまは、杉田くんにあやまってかえすんだな。」

と、おとうさんはいいました。

でも、かおるはその方法を実行する勇気がなかったのです。

杉田くんが本をかしてくれるとき、「これほくのいちばんすきな本だからたいせつにしてくれよ」といったのです。

★
問い3 — 線③「よくないしらせ」とは、どんなしらせですか。

★
問い4 — 線④「かおるはその方法を実行する勇気がなかった」について、次の(1)・(2)に答えなさい。

- (1) 「その方法」とはどんな方法ですか。「うまい方法」につながるように、文中から書きぬきなさい。

- (2) なぜ、かおるは実行する勇気がなかったのですか。次の()にあてはまることばを文中から書きぬきなさい。

かおるがかりた本は、杉田くんの

本で、杉田くんがとても

していることをしていたから。

そして、かおるもその前から杉田くんがその本をとてもたいせつにしていることをしていました。杉田くんは、その本をいつも教科書といっしょにランドセルにいれていたからです。

(征矢清「かおるのたからもの」)

★
問い1 — 線①「たけしのしわざ」とは何のことで、文中から六字で書きぬきなさい。

Blank box for answer to Question 1.

問い2 — 線②「あした本屋さんにてのんでこよう」とおとうさんがいったとき、かおるはどんな気持ちだったと思われませんか。もっともよいものを次のア〜エからえらび、記号で答えなさい。

- ア うまくいきそうだと、ほっとしている。
- イ もしだめだったらと、心配になっている。
- ウ 早くたのんでほしいと、あせっている。
- エ きつとだめにちがいないと、あきらめている。

Blank box for answer to Question 2.

ことば・コトバ・言葉

1 次の「線」のことはを国語辞典にのっている形(言い切りの形)で、すべてひらがなで書きなさい。

(1) 空を見た。

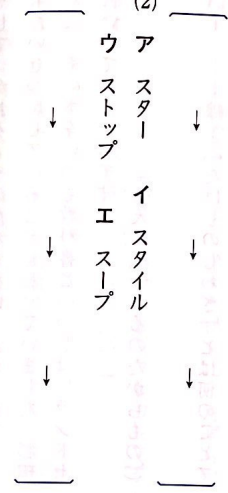
(2) 大声でわらいましょう。

(3) とても楽しかったね。

2 次のことを国語辞典にのっている順にならべ、記号で答えなさい。

(1) ア はんにん イ ばんにん
ウ パン エ ばん

(2) ア スター イ スタイル
ウ ストップ エ スープ



「こま」「ま」「ま」のように、「」(濁点)「ぎ」つけることばのことばになるものがあるよ。次のことばは何になるかな?

① まと

② はら

③ かめん



第3回 物語文2 のんちゃんどぶしぎな花束 (1)

◆場面をとらえる
物語文で起るできごとの、一つ一つのましまりを「場面」といいます。その場面がいつのことで、どこで何が起きたかをとらえます。

- (1) ときをとらえる。
 - ・ いつ、そのできごとが起こったか。
 - ・ いつ、そんな気持ちになったか。
- (2) 場所をとらえる。
 - ・ どこで、そのできごとが起こったか。
- (3) 登場人物をとらえる。
 - ・ だれが登場するか。
- (4) できごとをとらえる。
 - ・ 登場する人物どうしのかんけいはどうか。
 - ・ 何が、どうなったか。
 - ・ だれが、どう思ったか。

漢字を書け。

委 女 8 イ ゆだねる	陽 フ 12 ヨウ	勉 カ 10 ベン	根 木 10 コン	向 ロ 6 モク ムク コウ むきこう	買 ロ 10 イン	薬 ヤ 16 ヤク くすり
--------------------------	--------------------	--------------------	--------------------	---------------------------------------	--------------------	---------------------------

- (1) カヤクがばく発する。
- (2) ベンキョウをする。
- (3) 図書イインになる。
- (4) コンキョクつづける。
- (5) 山のムこうに行く。
- (6) ヨウキな人。
- (7) 大きな木のネ。

文章たんけん

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

その日、のぞみ^①が学校からかえっていると、おかあさんは、寝ていました。

「どうしたの？」

「ちょっと、ねつがあるから、バートを休んだの。どうも、かぜひいちゃったみたいなの……。」

おかあさんは、布団の中から、よわよわしい声でいきました。

「じゃあ、あたし、おつかいしてきてあげようか？」
のぞみは、ランドセルをおろしながら、いいました。

「さっき、おとうさんに電話したら、会社のかえりに夕はんのおかずを買ってきてくれるんですって、だから、だいじようぶ。」

「じゃあ、お米といであげる。」

「それも、さっき、起きたついでにしたから、いいのよ。」

「なあーんだ、あたしがせっかく、おてっだいでしてあげようと思ったのに……。」

「そうか、こんなときに、のんちゃんに」



やってもらえばよかったわねえ。」

② おかあさんは、ちよつどうれしそうちに、いいました。20

夕方、おとうさんが、ふくらんだカバンをさげて会社からかえってきました。カバンの中の包みから、とり肉^③のてりやき、ポテトサラダ、つけもの、などがでてきました。

「ありがとう、たすかったわ。なんだか、きゅうにお25
なかがすいてきたみたい……。」

おかあさんは、さっきより□いいました。

「わざわざ、起きてこなくていいよ。」
おとうさんは、おかあさんの布団のそばへテーブルをよせました。

「きょうは、ここで食べるでしょう。」

④ ごはんはのぞみが、炊飯器^④のスイッチをいれたので、あたたかくたきあがっています。

(高井節子「のんちゃんどふしぎな花束」)

問い1 — 線①「のぞみ」とありますが、おかあさんは、のぞみのことを何とよんでいますか。

問い5 — 線⑤「おかあさんは、ちよつどうれしそうちに、いいました」とありますが、どんなことがうれしかったのですか。もっともよいものを次のア〜エからえらび、記号で答えなさい。

ア のぞみのやさしいことを聞いているうちに、病気のぐあいがよくなってきたこと。

イ 病気のおかあさんを気づかかって、のぞみがあれこれつだおうとしてくれたこと。

ウ 病気のおかあさんにかわって、おとうさんが夕はんのおかずを買ってきてくれることになったこと。

エ 病気のおかあさんが起きあがらずに食事ができるようなくふうを、おとうさんがしてくれたこと。

問い6 □にあてはまることばとしてもっともよいものを次のア〜エからえらび、記号で答えなさい。

ア よわよわしそうちに
イ つらそうちに
ウ まんぞくそうちに
エ 元気そうちに

問い2 — 線②「だいじようぶ」とありますが、これをわかりやすくいけるとどうなりますか。次の□にあてはまることは文中から書きぬきなさい。

のぞみに夕はんのおかずを買ったための□

□にいつてもらわなくても、心配ない。

問い3 — 線③「なあーんだ」とありますが、ここから、のぞみのどんな様子がわかりますか。もっともよいものを次のア〜エからえらび、記号で答えなさい。

ア びっくりしている様子。
イ はずかしがっている様子。
ウ がっかりしている様子。
エ ほっとしている様子。

問い4 — 線④「こんなとき」とは、どんなときを指していますか。



暗号のカギ

たから箱の中から、へんなメモと数字の書かれたカギが見つかった。ヒントと(れい)を読んで、メモに何が書かれているのか、なぞをといてくれたまえ。

- ヒント
- 1 カギに書かれた数字に注目せよ。
 - 2 五十音順にずらすのだ。

1

〈れい〉

かゆいねえおじのんざ

↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓

きょうのおかずはあじ

メモ1

さあめなほめすさ

メモ2

くもんつや ふすおよも

メモ3

ふさするるふつ
るもするしち

第4回 物語文2

のんちゃんとしきな花束 (2)



漢字を写す。

仕
イ 5
つかえる

事
1 8
こと

着
※ 12
つきる

度
7 9
ド

物
牛 8
もの

始
女 8
はじめる

次
次 6
つぎ

(1) 駅に電車がつく。

(2) 新しいシヨト。

(3) ドウブツエンのオネ。

(4) コウドなきじゆう。

(5) ツギは国語の時間だ。

(6) 花火大会がハジまる。

(7) 父はモノシリです。

漢字の画数

漢字を書くときのひとつ一つの線や点を「画」といいます。また、漢字や漢字の部分がいくつの線や点でできているかを画数といえます。

漢字の筆順

漢字を書くときには、画をどんな順番で書くかという決まりがあります。

- (1) 上から下へ、→ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓
 - (2) 左から右へ、ノ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓
 - (3) 横が先、たてが後、一 ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓
 - (4) まん中が先、両がわが後、ノ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓
 - (5) かこみが先、中が後、ノ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓
- ※ いろいろなもので、漢字ごとにしっかりおぼえましょう。

文章たんけん

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

みんなが、食事をしているときでした。救急車の、ピーポ、ピーポ、というサイレンの音が近づいてきました。こんなことは、めずらしいことではありません。でも、救急車はますます近くなつて、ぱつと音がやみました。

「すぐ近くのようだね。」

おとうさんが、□をすましました。

「まさか、山田さんじゃないでしょうね……。」

おかあさんが、心配そうにつぶやきました。

「そんなことはないよ。おじいさんも、おばあさんも、元気だもの。」

10

のぞみは、そういいながら、となりの部屋にいき、窓をあけて見ました。

救急車の赤いシグナルが、赤い炎をくるくるどあたりにまきちらして、公園のむこうがわの道にとまっています。

「山田さんの家のまえに、とまっているみたい……。」
②のぞみの声が、かすれました。気がつくど、うしろ

におとうさんも立って、見ています。

①「あたし、いつてみる！」

のぞみは、おじいさんかおばあさんに、とつぜんなにかが起きたとは、どうしても思えませんでした……。

いそいで運動靴をはくと、階段をかけおり、暗いかしの木公園の中を、走っていききました。

25

ところが、救急車は、のぞみをまたずに、ピーポ、ピーポ、とサイレンをふりまいていつてしまったのです。立ちすくんで

ると、道に人影がありました。

30 山田さんの家のとなりの、おばさんでした。

おばさんは、のぞみを見るなり、いいました。

「あなた、いつも山田さんの家にきてる、おじようさんね。いま、おじいさんが、運ばれていったところよ。」
(高井節子『のんちゃんとしぎな花束』)



20

18

問い2 □にあてはまる、体の一部を表すことばを漢字一字で書きなさい。

問い3 線②「そんなことはないよ」とありますが、

どんなことはないのでしょうか。もっともよいものを次のア〜エからえらび、記号で答えなさい。

ア 救急車が山田さんの家の人を運ぶためにやってきたということはない。

イ 山田さんがまちがって救急車をよんでしまったということはない。

ウ 救急車がのぞみの家のすぐ近所の家にやってきたということはない。

エ 山田さんがおかあさんのために救急車をよんだということはない。

問い1 線①「こんなこと」とは、どんなことを指していますか。

問い4 線③「のぞみの声が、かすれました」とありますが、このときののぞみの気持ちを表すことばとしてもっともよいものを次のア〜エからえらび、記号で答えなさい。

ア きたい
イ ふあん
ウ いらだち
エ ころかい

問い5 線④「あたし、いつてみる」とありますが、のぞみがいそいで山田さんの家へいく様子が書かれている文の一つさがし、そのはじめの五字を書きぬきなさい。

Blank box for writing the first five characters of the text.

問い6 線⑤「見るなり」の意味としてもっともよいものを次のア〜エからえらび、記号で答えなさい。

ア 見るのしだいに
イ 見るのいつも
ウ よく見もしないで
エ 見るとすぐに

ことば・コトバ・言葉

1 次の漢字は何画で書きますか。漢数字で答えなさい。

(1)	気	画	(2)	女	画
(3)	門	画	(4)	通	画
(5)	弓	画	(6)	線	画
(7)	毎	画	(8)	夏	画

2 次の漢字の筆順として正しいものをつえらび、記号で答えなさい。

(1)	土	ア	一	↓	+	↓	土	画
(2)	京	ア	古	↓	戸	↓	京	画
(3)	図	ウ	イ	↓	ア	↓	図	画

第5回 詩 1 すすめ・芸術品

◆こそあどことば
場所やものごとを指ししめすことばを「こそあどことば」といいます。

話し手に近いとき	もの	場所	方向	様子
話し手から少しはなれて	これ	ここ	こちら	こんな
話し手から遠いとき	その	そこ	そちら	そんな
話し手から遠いとき	あれ	あそこ	あちら	あんな
よくわからないとき	どの	どこ	どちら	どう

「これはおいしいよ。」
「ほんとうに、それはおいしいそうだね。」
「あれもおもしろいよ。」
「それがいちばんおいしいかな。」

漢字を書こう。

主	全	遊	緑	者	所	深
シユ	ゼン	ユウ	リョク	シヤ	シヨ	シン
おも	ま	あそぶ	みどり	もの	ところ	ふかまる

(1) ゼンインで歌う。
(2) ミドリ草原を見る。
(3) 物語のシュジンコウ。
(4) 有名なガクシヤ。
(5) このバシヨは明るい。
(6) フカイ海。
(7) 友だちとアソぶ。

(れい)のように、画数でたし算やひき算をしています。
□に入るのは、□の中のどの漢字かな？

(れい) 日 + 土 = 作 (4画) (3画) (7画)

① 曜 - 表 = □
② 屋 - □ = 才
③ 母 + 引 = □

考馬発

文章たんけん

1 次の詩を読んで、あとの問いに答えなさい。

川越 文子

すずめ
ぼくの庭にあそびにくる

すずめ

① ぼくが見ていることに気がついてるのかなあ
ときどきこっちを見る

② ちがってた

友だちをまつてるだけだった

友だちがきたら

ほら やくそくしていたみたいに

飛びたった

すずめ

③ ぼくも友だちをまつているんだ

いつも

ここで

こうして

問い1 線①「ぼくが見ていることに気がついてるのかなあ」とありますが、すずめのどんな様子を見て、そう思ったのですか。詩の中から一行で書きぬきなさい。

問い2 線②「ちがってた」とありますが、本当はどうだったのですか。詩の中から一行で書きぬきなさい。

問い3 線③「ぼくも友だちをまつているんだ」とありますが、「ぼく」はどんな気持ちなのですか。もっともよいものを次のア〜エからえらび、記号で答えなさい。

ア 友だちがなかなか来なくていらだつ気持ち。

イ 友だちが来るかどうか心配な気持ち。

ウ 友だちが来るのを楽しみにする気持ち。

エ 友だちがいなくてさびしい気持ち。

2 次の詩を読んで、あとの問いに答えなさい。

農家の
おばさん

農家のおばさんが

トマトを売りにくる

めんどりがたまごをうむように
かすりのまえかけてみかいては

ひとつひとつとりだす

「初めです」

といいながら

えんがわにまるくならへる

「うちのは芸術品だから」
ならべておばさんは

ながめる

なるほど

色もかたちも

ひとつとして

同じトマトはない

問い1 農家のおばさんがトマトをとりだす様子について、次の(1)・(2)に答えなさい。

(1) 何がどうする様子にたとえていますか。

(2) その様子から、おばさんがトマトをどう思っていることがわかりますか。もっともよいものを次のア〜エからえらび、記号で答えなさい。

ア 少しでも高く売ろうと思っている。

イ ひとつひとつ大切に思っている。

ウ 食べたいと思っている。

エ めずらしく思っている。

問い2 線部「うちのは芸術品だから」とありますが、これはどういう意味ですか。詩の中から三行で書きぬきなさい。

問い3 _____にあてはまることばとしてもっともよい

ものを次のア〜エからえらび、記号で答えなさい。

ア じろじろ イ こそこそ
ウ ちらちら エ しみじみ

ことば・コトバ・言葉

1 次の文の中からこそあどことばをさがし、その横に——線を引きなさい。

- (1) 学校の先の、あの角をまがりなさい。
- (2) どの本を読もうかな。
- (3) これは、わたしのたから物です。
- (4) あそこにいるのは、わたしの友だちです。

2 次の——線のこそあどことばが指すことばを書きなさい。

- (1) いっしょに公園に行こう。そこで遊ぼう。
- (2) 新しいくつを買ってもらった。それをはくのが楽しみだ。

第6回

説明文

人はなぜ服をきるか



ねらい
◆話題をとらえる

説明文では、話題について、いろいろな面からくわしい説明がされています。文章を書いた人が説明したいと思っていること（＝話題）は何かをわかったうえで読むことが大切です。

- (1) 文章のはじめのほうを見る。
文章のはじめに、これから説明することがかんたんに書いてあることが、多いです。また、読み手への問いかけの形で話題がしめされることもあります。
- (2) くり返り出でくることばをとらえる。
説明する中で大切なことばは、何度も出てきます。
- (3) 文章の題名を見る。
文章全体の話題の中心が題名になっていることが多いので、さんこうにします。



漢字を書け。

代	葉	様	化	荷	感	面
イ 5 よかたダイ る	ハ 12 は ヨウ	木 14 さま ヨウ	ヒ 4 ばか はかす	カ 10 に	心 13 カシ	面 9 メン

- (1) ダイヒヨウをえらぶ。
- (2) 重いニモツをかつぐ。
- (3) 夕日にカンドウする。
- (4) きれいな木のハ。
- (5) シヨウメンげんかん。
- (6) 子どもの遊ぶヨウス。
- (7) カセキを見つける。

【習】もの数え方は、「一人」「一台」「一足」など、いろいろあります。次の文の□に入る、ものを数えるときに使うことばを、あとの□の中からえらんで書きましよう。

——のゾウが、——の小鳥

——のゾウが、——の小鳥

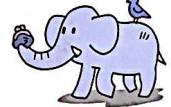
「えんぴつを——

画用紙を——、どうぶを

——

「——

円 頭 羽 まい 丁 本



文章たんけん

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

人間は、ほかの動物とちがいで、はだかのままのすがたです。

このはだかの人間が、どうして氷にとざされた北極や、あつい熱帯でもすむことができるのでしょうか。人間は、はだかだからこそ、さむいところでは服をきて、あついところでは、うすい服ですすしくくらせるのです。また、あたためたり、ひやしたりして、すむところの温度をちようせつしてくらしています。

それでは、人間はいつごろ、服をきるようになったのでしょうか。おおむかし、わたしたち人類の祖先はアフリカのあたたかいところにずっとすんでいたの、さむさから、からだをまもるための服はきていなかったのです。そのために、人間には、からだに毛がはえなくなってしまうのでした。

ところが、地球の気候にたいへんおおきなへんかがありました。さむい氷河期がきたのです。地球上のあちこちにひろがっていった人類も、このさむい気候にさらされました。おおくの動物は、さむさにふるえ、

（作問上、一部表現を変えています。）
*氷河期 地球上の気候がさむくなり、広い地いきが氷でおおわれた時代。

☆ 問い1 線①「人間は、ほかの動物とちがいで、はだかのままのすがたです」とありますが、人間はなぜ北極や熱帯でもすむことができるのですか。次の□にあてはまることを文中からそれぞれ書きぬきなさい。

からだの上に □ をきたり、すむところの □ を

☆ 問い2 線②「人間はいつごろ、服をきるようになったのでしょうか」について、次の(1)・(2)に答えなさい。

(1) 人間が服をきるようになったのは、いつの時代からですか。

死んでいくものもいました。また、からだじゅうに脂肪をおおくして、さむさからまもって生きのこる動物もいました。人間は、からだをかえずに、けもの毛皮をかぶったりして、さむさからからだをまもったのです。毛皮が、人間のさいしよの服となったのでした。（中りやく）



それでは、さむさからまもるのに、どうして服をきるにあたりかいたのでしょうか。それは、服がからだからでる熱を、そとにださないためです。それには、できるだけ、熱を服のなかにとどめて、にがさないようにすることです。ぎやくに、あつい太陽の熱をうけないためにも、服はひつようです。あつさからまもるには、からだの温度よりあつい空気がはいつてこないようにすると、からだからでる熱を、そとへにがすことです。からだをうごかすと、からだの温度があがり、熱をだしあせをかきます。このあせも、はやくにがさなくてはなりません。それには、うすくて、風とおしがよく、太陽の光をとおさない服がひつようです。

（神山恵三「人はなぜ服をきるか」）

(2) さいしよの服は、どんなものでしたか。

問い3 服をきるとあたたかいのは、なぜですか。

問い4 あつさからからだをまもるためにはどうするといいいのですか。次の()にあてはまることを文中からそれぞれ書きぬきなさい。

(1) からだの温度より

(2) からだからでる

そとへ

問い5 あつさからからだをまもるにはどんな服がひつようですか。

数字ことば



買い物にいつてくれて39、



5963。くだものの15と、や

さいの8931を買ってくれたね。



2983はしまっていたのか。



でもタイの343があるよ。



648だと食べられないから、



8148でちりょうしなさいね。

「9841」と書いて「クヤシイ」と読めるね。同じように、数字ことばで書かれた次の文を読んでみよう。

第7回

説明文1

人はなぜ服をきるか (2)



ことば・コトバ・言葉

◆つなぎことば

次の「だから」や「でも」のように、文と文をつなぐ役目をすることばを「つなぎことば」といいます。文と文だけでなく、ことばとことば、段落と段落をつなぐこともあります。

・サッカーをしてつかれた。だから、早くねた。

・足がいたかった。でも、さいごまで走った。

③ つくくわえたり、ならべたりする…さらに…また…そして…しかも

④ 説明したり、おぎなったりする…なぜなら…たとえば…ただし…つまり

⑤ くらべたり、えらんだりする…または…それとも

⑥ 話題をかえる…では…さて…ところで



漢字を書こう。

植	研	級	究	温	列	問
木 12	石 9	系 9	穴 7	12	リ 6	ロ 11
うえる	ケン	キユウ	キユウ	オン	レット	モン
うわる				あたたかい		とん
				あたたまる		

(7) _____

(6) タイオンをはかる。

(5) ガツキユウカイ。

(4) アタタかいスープ。

(3) タウえをてつだう。

(2) 月をケンキユウする。

(1) ありのギョウレツ。

文章たんけん

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。
それでは、人間がうつくしくかざるのは、どうしてでしょうか。動物や鳥にも、うつくしくかざりたてるものがあります。ライオンのオスのたてがみ、くじやくのオスが羽をひろげたすがたをみたことがあるでしょう。

人間も、古くから、いろいろなやりかたで、からだをかざってきました。はだかの人間が、かりでとったえもの羽、つなどを手や足、あたまなどにつけました。それは、えものがとれたことにかんしゃし、もつとえものがとれるようにといふこともあったのでしよう。

また、かりのとき、じぶんのからだを、まわりのよすや動物のすがたににせてかざりたて、えものからわからないようにしたりしました。



ちにしたりもしました。

人間は、一人で生きていくことはできません。おおいであつまってくらしたほうが、いろいろつごうがよいので、たすけあつてくらししてきました。これが社会となり、民族となり、文化をきずくもとなつていきます。

おおぜいの人のなかで、力がつよくえものをとるのうまい人は、みんなに食べものをあたえてくれるというこで、人びとからうやまわれ、ほかの人とちがつた服をまとい、かざりたてました。

人間がおおぜいでくらすことがつづくとき、えものがおおくとれるようにと、ねがいのまつりなどをするようになりました。これをおこなう人は、ほかの人たちとちがつた服をまとい、人間の方ではかなえられない力を神にたよるようになっていったのです。

そして、男の人、女の人、子ども、老人とそれぞれくべつする服をまどうようになっていきます。

(神山恵三)「人はなぜ服をきるか」

★
問い1 — 線①「人間が……どうしてでしょうか」とありますが、次のようにからだをかざるのは何

「人」について、次の(1)・(2)に答えなさい。

(1) その人は、人びとからどのように思われていましたか。

(2) その人はどんな服をきていましたか。

問い4 — 線④「これをおこなう人」とは、何をする人のことですか。

★
問い5 次の中で、この文章に書かれていることと合

っているものには○、合っていないものには×を()の中に書きなさい。

(1) () 社会ができたころ、カのつよい人やまつりをする人はほかの人とはちがう服をきていた。

(2) () 社会ができたころ、カのよわい子どもと老人だけが同じ服をきていた。

(3) () 人間は自分をうつくしくみせるためだけにからだにえものの羽やつをつけていた。

のためだと考えられますか。次の()にあてはまることは文中からそれぞれ書きぬきなさい。

(1) かりでとったえものの羽、つなどを手や足、あたまなどにつける。

ため。

(2) かりのとき、からだをまわりのようすや動物のすがたににせてかざりたてる。

するため。

問い2 — 線②「これが社会となり」とありますが、「社会」は、人間がどのようにしてきたことであつたのですか。次の()にあてはまることを文中からそれぞれ書きぬきなさい。

の人たちがあつまって、

くらししてきたこと。

問い3 — 線③「力がつよくえものをとるのがうま

ことば・コトバ・言葉

1 次の()にあてはまることばを下の□の中からえらび、それぞれ書きなさい。

- (1) 犬とねこをかつています。
- (2) バスで行きますか。
- (3) かせをひいてねつが出ました。

□、学校を休みます。

□、小鳥もかつています。

□、電車ですか。

□、それを
しかし
だから
すると
それとも

2 次の□にあてはまることばをあとのア・イからえらび、それぞれ記号で答えなさい。

- (1) 外は大雨なので、□。
 - (2) 外は大雨だけれども、□。
- ア 出かけなければならぬ
- イ 家の中で遊ぶ

【解】「き」で終わることば、「は」で始まることばのかいだんを作ろう。

は は は は は

き き き き き

第8回

詩2

雨あがり・ひまわり



漢字を書こう。

板 木 8 いた はん	送 し 9 おく ほう	持 も 9 もっ じ	係 い 9 かか けい かり	漢 し 13 かん	運 う 12 はこ ぶん び	身 み 7 み ぶん
(7) _____	(6) _____	(5) _____	(4) _____	(3) _____	(2) _____	(1) _____
カンジをおぼえる。	そうじのカカリ。	コクバンの落書き。	友人に手紙をオクテ。	手に花をまつ。	ウンドウジョウ。	シンチョウがのびる。

◆詩について

詩では、いろいろな言い表し方をくふうして、ものごとの様子や作者の気持ちを表し、読む人の注意をひきつけます。

(1) 「まるで〜のようだ」「〜みたいだ」

「父のとなり声は、まるでかみナリのようにだ。」などのように、たとえだとはっきりわかる形でたとえます。

(2) 「〜は…だ」

(1)のことは使わないでたとえます。

(3) 人間でないものを人間のように表す。

「落ち葉が風におどっている。」などのように、人間だけがする動きを表すことばを人間でないものに使ってたとえます。

(4) 同じことばをくり返す。

大事なことばをくり返します。

☆ 文章たんけん

1 次の詩を読んで、あとの問いに答えなさい。
 雨あがり 間所ひさこ

小鳥たちは、
 ①洗いたての、^②ひかるちいさな笛を、
 飛びながら、吹く。

ビーー
 ビーー

なかにはしずくのつまったやつもあり、
 そんなのは、

③フイッー フイッーと鳴っている。

雨があがって、
 林の空はからんと晴れ。

ぬれた木の根のかげから、

こおろぎのひげがちりちりのぞく。

(やんだぞ)

(やんだぞ。 あかるいぞ)

うなずきあうのは白いきのこの頭たち。

——まひるをのせて、いま、

地球はゆっくりとねがえりうつー

☆ 問い1 ——線①「洗いたて」とは、どんなことをたとえていますか。もつともよいものを次のア〜エ

からえらび、記号で答えなさい。

ア ずっと水あそびをしていたこと。

イ たった今、せんたくがおわったこと。

ウ ついさっきまで雨にぬれていたこと。

エ 風に吹かれつつつけていたこと。

☆ 問い2 ——線②「ひかるちいさな笛」とは、何をたとえていますか。次の□□にあてはまることばを考えて書きなさい。

小鳥たちの

□
□
□

問い3 ——線③「フイッー フイッーと鳴っている」から、この小鳥のどんな様子がわかりますか。もつともよいものを次のア〜エからえらび、記号で答えなさい。

ア わざとちがう鳴き方をしている様子。
 イ つかれていて鳴きたがらない様子。

④ うたっている

ひまわりの

つよいいのちを
 うたっている

☆ 問い1 ——線①「きんたてがみ」は、何をたとえていますか。もつともよいものを次のア〜エからえらび、記号で答えなさい。

ア 空いっぱいにふくらんだ、にゅうどうぐも。
 イ みわたすかぎりさいている、ひまわり。

ウ 大きくひらいた、ひまわりの花びら。

エ 夏の太陽の、強い日ざし。

□

☆ 問い2 ——線②「うたっている」とありますが、どんなことをうたっていますか。次の□□にあてはまることばを詩の中から書きぬきなさい。

□	の	□
□	□	□

⑤ どの花も
 きんたてがみなびかせて
 陽に
 ぎんぎんと

2 次の詩を読んで、あとの問いに答えなさい。

ひまわり 武鹿 悦子
 にゅうどうぐもまでつづいてる
 みわたすかぎりの畠のひまわり

□
□

漢字かぜをふきとばせ

どのばいきんグループも、自分たちについている漢字と組み合わせてことばを作る字の薬が苦手らしい。どのグループにどの薬がきくかな？



①グループ



②グループ



③グループ



③グループ



④グループ

まごめのかくれしめし

タイムテスト

(1)

月

日

得点

/100点

1 次の——線部の漢字の読み方を書きなさい。(各2点)

(1) 台所たいしよにおいてある。

(2) 太陽たいやうがしずむ。

(3) うまさうまさに感心かんしんした。

(4) 植物しょくぶつがすきた。

(5) 送料そうりやうを調べしらべる。

(6) 車くるまに注意ちゆうい。

(7) 全くたつぷわからない。

(8) 代わりかわりの人をよぶ。

2 次の——線部のかたかなを漢字に直しなさい。

(1) 新しい服ふくをきる。

(2) オンドおんどうが上がる。

(3) レッシャれっしゃが通る。

(4) おめんおめんをつける。

(5) ユウエンチゆうえんちへ行く。

(6) ヨウジようじをすませる。

(7) 荷物にものをハコぶ。

(8) 赤いヤネあかいやねの家。

3 次のことばは、国語辞典こくごじてんではどんな順じゆんに出ていますか。早く出てくる順じゆんに番号ばんごうを書き入れなさい。

(全部で各4点)

- (1) () ポスター () 校長
- () ボタン () 高地
- () ポート () 交代
- () ポスト () 広大
- (2) () () () ()

4 次の漢字は何画で書きますか。漢数字で答えなさい。

(各4点)

5 次の漢字の筆順の正しいほうをえらび、記号で答えなさい。

- (1) 区 ア 一 フ 又 区
- (2) 母 ア ノ 口 口 母 母
- (3) 右 ア 一 ナ オ 右 右
- (4) 米 ア ノ ノ 半 米 米

6 次の()にあてはまるこそあどことばを()の中からえらび、それぞれ書きなさい。

- (1) _____ があなたの本ですか。
- (2) 本は _____ においてください。
- (3) _____ 本はおもしろそうだね。

(4) 君が _____ 言ったんだよ。

_____ どれ

7 次の①、②のような方ほうで、二つの文をつなぎなさい。

- (1) ① おおかみが来た。それで、羊がにげた。
② おおかみが来たので、羊がにげた。
道具が足りなかった。
直すことができなかった。
- (2) ① _____
② 雨がふり出した。かさを持っていなかった。

第9回 物語文3

ヨースケくん (1)

◆気持ちを読み取る

物語文を読むときは、登場人物の気持ちをとらえることが大切です。

- (1) 気持ちを表すことばをさがす。
「うれしい」「くやしい」「かなしい」など、気持ちを表すことばをとらえましょう。
- (2) 登場人物が言ったことばや、思ったことに注目する。
はっきりとは言っていないなくても、ことばには言ったときの気持ちが表れています。
- (3) 登場人物の顔つきや様子に注目する。
うれしいときはうれしい顔、かなしいときはかなしい様子になっています。
- (4) 登場人物の行動から考える。
気持ちに合わせて、行動もかわります。気持ちをそうぞうして読みましょう。

漢字を書こう。

悪 心 11 わるい	放 女 8 はなはなをうつる	返 ミ 7 かえす	部 フ 11 ぶ	鼻 鼻 14 はな	死 死 6 しぬ	開 門 12 あく
------------------	----------------------	-----------------	----------------	-----------------	----------------	-----------------

- (1) 金魚がシ|んた。
- (2) まどをア|ける。
- (3) ホウソウ|プに入る。
- (4) ソウはハ|なが長い。
- (5) 元気にヘ|んじする。
- (6) アク|ニンをとらえる。
- (7) 光をハ|ナつ。

文章たんけん

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。
いまは六月で梅雨のまっさいちゅう。今日も明けがたに雷が鳴り、雨はあがったけれど、空はまだぬずみ色の雲がびっしりおおっています。
小学生のヨースケくんは、いつものごとく七時四十分

分に家を出た。
八幡川その道の路まできて、びっくりした。道路から一段ひくい川岸の手すりこしに、カフエオーレ色の水が、川幅いっぱいにあふれて、すごいいきおいでながれてるのが見えた。ドウ、ドウという水音が、水面からというより地面をつたわってくる。

八幡川は、八幡山の谷からながれだしている幅が十メートルたらずのせまい川で、ヨースケくんの住んでいる柱町をよこぎり、国道にかかる平和橋の下をくぐって大川にそそぎこんでいた。

いつもは川底のミソソバのしげみのみんなかを、深さ十センチほどのきれいな水がながれているだけだ。



[ミソソバ]

ヨースケくんも、ときどきこの川でフナやウナギをすくってあそぶことがある。

ところが、今朝の八幡川ときたら、両側の高いコンクリート壁のかなり高いところまで水位があがり、手をのばせば、流れにふれられそうなどころまであふれているのだ。ヨースケくんは、川岸の手すりにつかまって、こわごわ川のなかをのぞいてみた。茶色の水が、よじれたり渦を巻いたり、白いあわをたてたり、大きな波をつくったり、水しぶきをあげたり、じつにいろんなかつこうをしながら、川下へ、川下へと、ながれ

ていく。
こんな八幡川を見るのは、はじめてだ。いつもは、ごくごくおとなしい川が、お酒によっぱらって、大きくわがわがしているみたいだ。さいしよは、ちよつとこわいような気がしたけれど、ながめているうちに、だんだんおもしろくなってきた。

よく見ると、流れのきゆうなところもあるし、ゆるいところもある。ぜんぜんながれていないところや、場所によっては、ゆっくり川上のほうにUターンしてるところもある。そんなところには、いろいろなごみがあつまっているのですぐにわかる。

(1) 今朝、八幡川をはじめに見たとき。

(2) 川岸の手すりから、川のなかをのぞいたとき。

(3) 川をながめてしばらくたったとき。

問い3 この場面で、ヨースケくんがながめているのは、何ですか。もっともよいものを次のア〜エからえらび、記号で答えなさい。
ア ミソソバのしげみ。
イ 川のなかのフナやウナギ。
ウ 川の水が流れる様子。
エ 川の両側のコンクリート壁。

問い4 あれた八幡川の様子をたとえを用いて表している文を一つ書きぬきなさい。

(那須正幹)「ヨースケくん」小学生はいかに生きるべきか―

問い1 八幡川について、次の(1)・(2)に答えなさい。
(1) 今朝、ヨースケくんがはじめて八幡川を見たとき、川はどんな様子でしたか。次の□にあってはまることを文中から書きぬきなさい。

色の

水が、川幅いっぱいにあふれて、ドウ、ドウと音をたてて

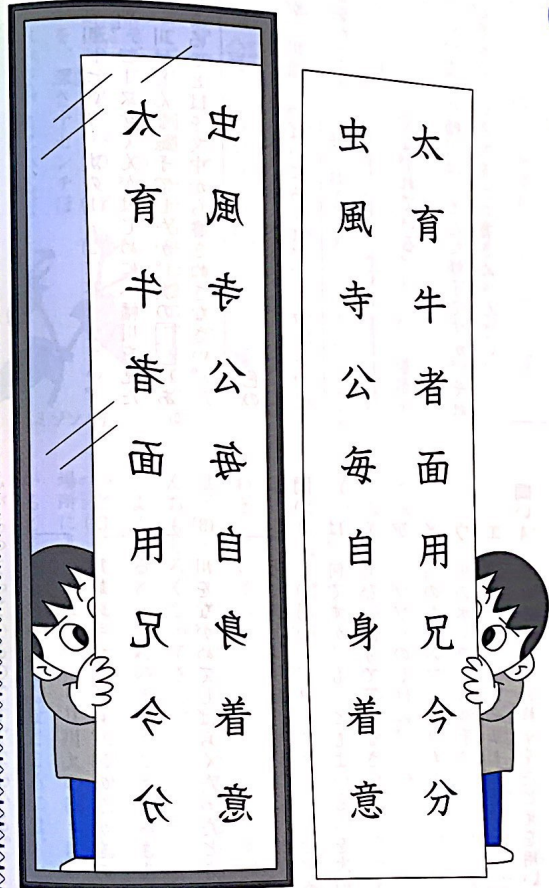
でながれている。

(2) いつもの八幡川は、どんな様子ですか。それが書かれている文を一つ書きぬきなさい。

ヨースケくん(1)
問い2 次のとき、ヨースケくんはどんな気持ちでしたか。文中から書きぬきなさい。

まぢがったかがみ

漢字の書かれた紙ががみにうつつている。左右反対にうつるはずなのに、おかしいところが四つあるよ。どの漢字かな？



第10回 物語文よ 言葉文よ ヨースケくん (2)

◆文のほね組み

- バラが さく。(何が・どうする)
 - バラは 美しい。(何は・どんなだ)
 - バラは 植物だ。(何は・何だ)
 - バラが ある。(何が・ある)
- (1) 主語: 「バラが(は)」のように、「何が(は)」に当たることは。
- (2) 述語: 「さく」「美しい」「植物だ」「ある」のように、「どうする」「どんなだ」「何だ」「ある」に当たることは。

◆文の四つのかた

- 文は、次の四つのかたがもとになっています。
- (1) 何(だれ)が(は) どうする。
 - (2) 何(だれ)が(は) どんなだ。
 - (3) 何(だれ)が(は) 何だ。
 - (4) 何(だれ)が(は) ある(いる)ない。

漢字を書け。

進	重	服	童	都	談	終
進	重	服	童	都	談	終
11	9	8	12	11	15	11
すすむ	おもく	はく	どう	みやこ	だん	しゆう
すすむ	おもく	はく	どう	みやこ	だん	しゆう

- (1) タイジユウをはかる。
- (2) 新しいフクを買う。
- (3) 作文を書きオえる。
- (4) ドウフがすきた。
- (5) 兄に相ダンする。
- (6) 東京トの人口。
- (7) 南に向かつてススむ。

文章たんけん

① 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。
水面をじっと見てみると、ヨースケくんの立っている川岸のほうが、上流にうごいているような気がしてきました。そんなばかなことはない、これは錯覚なんだとわかっていても、足もとの川岸がぐんぐん川上に進みはじめ、ヨースケくんはあわてて両足をふんばった。
「すごいなあ」

ヨースケくんは、思わず声にだしてつぶやいていた。
② 川岸は、かなりのスピードでうごいていく。むろん、ヨースケくんも川岸といっしょに川上にむかって進んでいるのだ。このまま川岸が学校のそばまで移動して10くれれば、らくちんだなあ。そんなことを考えながら、ひよいと顔をあげて対岸の家をながめると、いまのいままですばらしいスピードでうごいていたからだが、びたりと止まってしまった。でも、視線を川面にうつすと、すぐに自分のほうがうごきはじめる。
③ 「おーい、奥谷、遅刻するぞ」
うしろで声がした。ふりかえると道路の上からクラスメートの倉橋勝次くんが、手をふっていた。

④ そうだ、いまは学校にいくとちゅうだったんだ。ヨースケくんは、あわてて川岸からはなれると倉橋くんを追いかけることにした。
「カツちゃん、すごいよ。川の水が、すっこくふえてさあ。どんなながれてるんだから」
倉橋くんは肩をならべると、ヨースケくんは八幡川の状況を報告した。
「おまえも、ひまなんだなあ。ずうっと川を見てたろう。おれ、アパートの窓からおまえのこと、見てたんだからな」
倉橋くんが、ちらりとうしろをふりかえった。倉橋くんの家は、八幡川の近くにたっているアパートの三階だ。
⑤ 「そんなに、長いこと見たかなあ」
「見た、見た。おれが牛乳飲んで、便所に行って、靴はいて、アパートをでて、そいで、あそこまで歩いていっておまえをよぶまで、ずーっと、あそこにつっ立つてたんだもんなあ」
なるほど、そういえばずいぶん長いあいだ、川をながめていたような気が



してきた。雨で増水した川が、あんなにおもしろいものだとは、知らなかった。帰りもぜひ見物したいものだ。
⑥ (那須正幹)「ヨースケくんー小学生はいかに生きるべきかー」

問い1 線①「川岸は、かなりのスピードでうごいていく」とありますが、じっさいにうごいているのは、川岸でなく何ですか。

問い2 ヨースケくんは、どんなことがおもしろくて、川をずっと見ていたのですか。次の□□にあてはまることを考えて書きなさい。

水面を見ていると自分が _____ 上に感じるものの、対岸の家を見ると、からだがかたがた震えていること。

問い3 線②「ふりかえると道路の上からクラスメートの倉橋勝次くんが、手をふっていた」とあ

りますが、ヨースケくんの様子を見ていた倉橋くんの気持ちとして、もっともよいものを次のア～エからえらび、記号で答えなさい。
ア あきれている。
イ こまっている。
ウ おこっている。
エ よろこんでいる。
⑦ 線③「そうだ、いまは学校にいくとちゅうだったんだ」とありますが、このときのヨースケくんは、どんな気持ちでしたか。

問い5 線④「そんなに、長いこと見たかなあ」とありますが、このことばから、ヨースケくんのどんな様子がわかりますか。もっともよいものを次のア～エからえらび、記号で答えなさい。
ア 時間もわすれてむちゅうで川を見ていた様子。
イ ねむくて、いねむりばかりしている様子。
ウ 遅刻するのがまったく気にならない様子。
エ やることが何もない様子。

ことば・コトバ・言葉

1 次の文の主語の横に——線を、述語の横に~~~~線を引きなさい。

- (1) あれが 学校です。
 - (2) ぼくは、毎日 外で 遊ぶ。
 - (3) この 花は、あの 花よりも 大きい。
- 2 次の文のかたは、あとのア〜エのどれに当たりますか。それぞれ記号で答えなさい。
- (1) あの犬がセントバーナードだ。
 - (2) 町の明かりがとてもきれいだ。
 - (3) 公園に子どもがたくさんいる。
 - (4) 小鳥がきれいな声で歌う。
- ア 何(だれ)が(は) どうする。
 イ 何(だれ)が(は) どんなだ。
 ウ 何(だれ)が(は) 何だ。
 エ 何(だれ)が(は) ある(いる/ない)。

第10回

説明文2

食虫植物のひみつ



漢字を書こう。

調
言 15
しらべる
チョウウ

庭
广 10
にわ
テイ

皮
皮 5
かわ
ヒ

洋
洋 9
ヨウ
ヨウ

橋
木 16
はし
キョウ
ウ

庫
广 10
コ
コ

皿
皿 5
さら
さら

- (1) ニワの池をながめる。
- (2) バナナのカワをむく。
- (3) 体のチョウウシがよい。
- (4) キンコにしまう。
- (5) 大きなハシをわたる。
- (6) きれいなおサラ。
- (7) ヨウシヨクがすきだ。

文章たんけん

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。
タンポポは、根からすいあげた水や養分、それから葉でつくられた糖分を栄養にして成長し、花をさかせて種をみのらせませす。タンポポだけではなく、そのほか、わたしたちの身のまわりにある植物のほとんどは、水分や養分のおおいこえた土地にはえていますから、あまり苦労なくとも生活できます。

広い地球には、めったに雨のふらない砂ばくがあります。また雨はふっても、養分のすくないやせ地があります。

そんなところにも植物は育っています。このようならすみにくいところでも育つ植物は、どのようなしくみで生活しているのでしょうか。

砂ばくに育つサボテンをしらべてみましょう。サボテンが芽ばえるときや、若い茎のときには葉がついていますが、やがておちてしまします。これは葉の気孔から、水分が外にでるのをふせぐためです。

茎は太っていて、切ってみると、中に水をたくわえた細胞の集りが見えます。このようにして、葉をおと

し、茎に水分をたくわえていけば、日照りつづきの砂ばくでも、なんとか生きていくことができます。20

いっぽう、水分があっても養分のすくないところでも育つ植物はどうでしょう。土からの養分吸収はあてになりません。そこでまったく新しい方法、つまり、空をぶちや、水中をおよぎまわるプランクトンを直接つかまえて食べる、ということをし自然と身につけたのです。これが食虫植物です。

食虫植物は、葉をつくりかえて捕虫器にしました。とらえた虫を分解する消化液まで用意しました。そんなことは、つゆしらず、虫たちは、うつくしい花や、おもしろい形の葉や、あまい蜜にさそわれてちかづいてきます。そして、餌食になってしまふのです。きびしい環境での生活のくふうが、食虫植物をうんだといえます。

*1 気孔は植物の葉のうらがあつて、呼吸を助ける小さい穴。

*2 プランクトン水中にいて、ごく小さな生き物。
*3 つゆしらずにまわつたくららないで。

問い1 [] にはまることばとしてもちつともよいものを次のア〜エからえらび、記号で答えなさい。

ア ところが イ または
ウ さて エ そして

問い2 — 線①「そんなところ」とは、どこを指していますか。文中から二つ書きぬきなさい。

Two empty boxes for writing answers to Question 2.

問い3 — 線②「このようになすみにくいところ」とは反対に、植物にとってすみやすいところとはどんなところですか。文中から十四字で書きぬきなさい。

A 14-character grid for writing answers to Question 3.

問い4 — 線③「サボテン」はどんなしくみで生活していますか。次の[] にはまることばを文中から書きぬきなさい。

A box for writing answers to Question 4.

問い5 — 線④「食虫植物」について、次の(1)・(2)に答えなさい。

(1) 食虫植物は、虫のほかに何をつかまえて食べますか。文中から六字で書きぬきなさい。

A box for writing answers to Question 5(1).

(2) 食虫植物は、きびしい環境で生活するため、どんなくふうをしましたか。次の[] にはまることばを文中から書きぬきなさい。

A box for writing answers to Question 5(2).

をつくりかえて [] を用

したり、虫を分解する [] を

意したりして、とらえた虫から [] を

1 かおるのたからもの(1)

- P 5
- △ (1) 君 (2) 発育 (3) 息 (4) 本屋 (5) 区切
- (6) 君 意見 (7) 意見

2 かおるのたからもの(2)

- P 9
- △ (1) 表 (2) 注 (3) 拾 (4) 文章 (5) 動
- (6) 題名 (7) 横切

P 6 「文章たんけん」

- 1 問いーウ
- 問い2 (1) かりていた本をかえす
- (2) 弟・本・クレヨン・いたずらがき
- 問い3 イ
- 問い4 クレヨンでいっぱいいたずらがきをした本が、もどおりになる方法。
- 問い5 けしゴム

【解説】

問い1 ⑤のあとの文章をよく読むと、かおるが、本をかえさなくてまわっていることがわかる。

問い2 (2)「どつしてか」と…。「一文に理由が書かれている。」

問い3 本をかえすことができてなくて、しょんぼりしているかおるの気持ちに合うのは、「どほどは」である。

問い4 少し前の「いい方法はないかしら……もどおりになる方法はないかしら」からとらえる。

問い5 話の流れをとらえる。かおるが「だめだ」と思ったのは、弟のいたずらがきをけしゴムでけそうとしたときのことだということをとらえる。

P 8 「来ていない動物」いぬ

（よぶんな動物）ねこ

P 10 「文章たんけん」

- 1 問いーいたずらがき
- 問い2 ア
- 問い3 杉田くんにかりた本とおなじ本は品切れて、しばらく本屋さんでは手にはいらぬというしらせ。
- 問い4 (1) 杉田くんにあやまって、クレヨンでいたずらがきをしたままの本をかえす（という方法。）
- 【別解】 杉田くんにあやまってかえす（という方法。）
- (2) いちばんすきな・たいせつに

【解説】

問い1 直後の「弟のたけしにいたずらがきをした本をみせながら……」に注目する。

問い2 文章のさいしよに「二の方法は、はじめうまくいきそうでした。」とあるので、かおるはおとうさんのことを聞いて安心していたと思われる。

問い3 直後のおとうさんのことばに注目する。

問い4 (1) かおるがさんさん考えてうかんできた、三ばんめの方法を指している。

(2) ④のあとをよく読む。かおるがかりた本は、杉田くんがとてみたいせつにしていた本だとわかる。だから、いたずらがきをした本を見たときの杉田くんを思うと、正直にあやまる勇気がなかったのである。

P 12 「ことば・コトバ・言葉」

- 1 (1) みる (2) わらう (3) たのしい
- 2 (1) エーアーアイ (2) エーアーイーウ
- ① まど ② ばら ③ がめん

3 のんちゃんといしぎな花束(1)

- P 13
- △ (1) 火薬 (2) 勉強 (3) 委員 (4) 根気 (5) 向陽気 (6) 陽気 (7) 根

P 14 「文章たんけん」

- 1 問いーのんちゃん 問い2 おつかい 問い3 ウ
- 問い4 おかあさんがさせてねつがあるようなどき。
- 問い5 イ 問い6 エ
- 【解説】
- 問い1 おかあさんのことばの中にある。
- 問い2 この「だいじょうぶ」は、のぞみの「おつかいできてあげようか？」に対する。おつかいはしなくても平気という意味の返事。
- 問い3 おつかいなくていい、お米ももどいでしまった、というおかあさんの返事に、何か自分も役に立ちたいと思っていたのぞみは、気を落としたのである。
- 問い5 直前のおかあさんのことばに注目する。のぞみのやさしい気持ちにうれしくなっている。
- 問い6 おかあさんはさっきよりなったのかをとらえる。直前のおかあさんのことばに「なんだか、きゅうにおなかがすいてきたみたい……」とあることから、「元氣そうに」があてはまる。

P 16 「メモ」

- (メモ1) たからはもらった
- (メモ2) さようなら またたると
- (メモ3) もっといいもの くれといてね

- (1) 着
- (2) 仕事
- (3) 動物園
- (4) 高度
- (5) 次
- (6) 始
- (7) 物知

〔文章たんけん〕
P 18
1 問い 救急車の「ピーポ、ピーポ」というサイレンの音が近づいてくること。

問い 2 耳 問い 3 ア 問い 4 イ 問い 5 いそいで運

問い 6 エ

〔解説〕

問い 1 「こと」で終わるようにまとめる。

問い 2 「耳をすます」とは、よく注意して聞くこととするという意味。

問い 3 おかあさんの「まさか、山田さんじゃないでしょうね……」を受けてのことばである。「おじいさんも、おばあさんも、元氣」

だから「そんなことはないよ」といっていることから考える。

問い 4 救急車が山田さんの家のまえにとまっているらしい様子を見

たときのそのまの気持ちを考える。

問い 5 「いそいで」「かけおり」「走っていました」に注目する。

問い 6 「なり」は、「……するとすぐに」という意味を表すことば。

〔ことば・コトバ・言葉〕

1 (1) 六(画) (2) 三(画) (3) 八(画) (4) 十(画)

(5) 三(画) (6) 十五(画) (7) 六(画) (8) 十(画)

2 (1) ア (2) イ (3) ウ

(4) 馬 (2) 考 (3) 発

る。

問い 3 おばさんがどんな気持ちでトマトをながめているか、想像し

てみよう。

〔ことば・コトバ・言葉〕

1 (1) あ (2) の (3) これ (4) あた

2 (1) 公園 (2) 新しいくつ

(3) 頭・羽・円・本・まい・丁

- (1) 全員
- (2) 緑
- (3) 主人公
- (4) 学者
- (5) 場所
- (6) 深
- (7) 遊

〔文章たんけん〕
P 22
1 問い 1 ときどきこつちを見る

問い 2 友だちをまわってただだった

問い 3 ウ

〔解説〕

問い 1 次の行に、すずめが「はく」のことを気にしているような様子が書かれている。

問い 2 「はく」のほうを見ていたのではなかったということ。

問い 3 「はくも」とあることから、すずめと自分を重ね合わせて見て

いることがわかる。

問い 1 (1) めんどりがたまごをくむ様子。

(2) イ

問い 2 色もかたちも

ひとつとして

同じトマトはない

問い 3 エ

〔解説〕

問い 1 たどえを表す「ように」ということばに注目する。

問い 2 「かすりのまえかきでみがいては」ひとつひとつりだ

す「ことから、農家のおばさんがトマトを大事にあつかっ

ていることがわかる。

問い 2 たんなる野菜ではなく、「芸術品」という意味をとらえ

〔ことば・コトバ・言葉〕

(1) 代表

(2) 荷物

(3) 感動

(4) 葉

(5) 正面

(6) 様子

(7) 化石

〔文章たんけん〕

1 問い 1 服・温度・ちようせつ

問い 2 (1) 氷河期 (2) (けもの)毛皮

問い 3 服がからだからでる熱を、そとにださないため。

問い 4 (1) あつちい空気がいってこないようにする

(2) 熱・あせ・にがす (熱)と「あせ」はぎやくに書いても

正しい。

問い 5 うすくて、風とおしがよく、太陽の光をおさない服。

〔解説〕

問い 1 直後に問いかげの文「このはだかの人間が……できるのでは

ようか」があり、それに対する答えが、つづく二文のべられ

ている。そこからさがす。

問い 2 ①線②のすぐあとには、人類の祖先は、アフリカのあた

かいどころにすんでいたで、服を着ていなかったと書かれて

いる。すこしあとの「ところが」ではじまる段落に、氷河期の

さむさからからだをまもるために人類が毛皮をきるようになった

ことが書かれている。

問い 3 25〜27行目に「それでは、さむさからまもの……あたた

かいのでしょか」という問いかげの文があり、それに対する

答えが、直後に「それは……ださないためです」とある。

問い 4・5 あつさからからだをまもるための服のはたらきについて、

さいこの段落から読み取る。

〔文章たんけん〕

1 問い 1 服・温度・ちようせつ

問い 2 (1) 氷河期 (2) (けもの)毛皮

問い 3 服がからだからでる熱を、そとにださないため。

問い 4 (1) あつちい空気がいってこないようにする

(2) 熱・あせ・にがす (熱)と「あせ」はぎやくに書いても

正しい。

問い 5 うすくて、風とおしがよく、太陽の光をおさない服。

〔解説〕

問い 1 直後に問いかげの文「このはだかの人間が……できるのでは

ようか」があり、それに対する答えが、つづく二文のべられ

ている。そこからさがす。

問い 2 ①線②のすぐあとには、人類の祖先は、アフリカのあた

かいどころにすんでいたで、服を着ていなかったと書かれて

いる。すこしあとの「ところが」ではじまる段落に、氷河期の

さむさからからだをまもるために人類が毛皮をきるようになった

ことが書かれている。

問い 3 25〜27行目に「それでは、さむさからまもの……あたた

かいのでしょか」という問いかげの文があり、それに対する

答えが、直後に「それは……ださないためです」とある。

問い 4・5 あつさからからだをまもるための服のはたらきについて、

さいこの段落から読み取る。

7 人はなぜ服をきるか (2)

- P 29
 (6) (1) 行利 (2) 問題 (3) 研究 (4) 田植 (5) 温
 学級会 (7) 体温

1 文章たんけん
 問い1 (1) えものがとれたことにかんしゃし、もつとえものがとれるようにどのいる(ためめ)。
 (2) えものからわからないように(するため)。

問い2 おおせい・たすけあつて
 問い3 (1) うやまわれてた。
 (2) ほかのひとちがった、かざりたてた服。

問い4 えものがおおくとれるようにど、ねがいのまつりなどをする人。
 問い5 (1) ○ (2) × (3) ×

解説
 問い1 (1)は第二段落に、(2)は第三段落に書かれている。
 問い2 「これが社会となり」の「これ」が指す内よりは、すぐ前の文から読み取れる。

問い3 直後に書かれている。
 問い4 「これ」が指している内ようをどらえる。
 問い5 (1) 25と33行目に書かれていることと合っている。
 (2) さいこの段落に、男の人、女の人、子ども、老人と、それそれくべつする服をきるようになったと書かれていることから、それまでは子どもや老人以外の男の人や女の人と同じ服をきていたとわかる。

(3) 第二・第三段落の内ようと合っていない。

8 雨あがり・ひまわり

- P 33
 (6) (1) 身長 (2) 運動場 (3) 持 (4) 送 (5) 黒板
 係 (7) 漢字

1 文章たんけん
 問い1 ウ 問い2 くちばし 問い3 エ 問い4 イ
 解説

問い1 9行目に「雨があがつて」とあることからわかる。
 問い2 「ビー」が小鳥たちの鳴き声であることをとらえる。
 問い3 雨の「しずく」がまつてうまく音が出なくて(もうまく鳴けなくて)こんな音になってしまっているのである。

2 文章たんけん
 問い1 ウ 問い2 ひまわり・つよいのち
 解説

問い1 すぐ前に「この花も」とあるので、一つの花の中にあるものだとわかる。たてがみなどは、馬・ライオンなどの首のまわりやうしろにはえている長い毛のことだが、そこから「花びら」をれんそうする。また、ひまわりのあざやかな黄色を「きん」色にたとえている。

問い2 「うたっている」ということばのくり返しに注目する。

P 32
 コトバ・コトバ・言葉

- 1 (1) それに (2) それとも (3) だから
 2 (1) イ (2) ア

(れ) き・たき・ためき・きつつき・めだまやき
 は・はち・はしこ・はんとる・はくちよう

- P 36
 (1) グループ カ (2) グループ 気 (3) グループ 心
 (4) グループ 作

タイムテスト (1)

- P 37
- (1) だいでころ (2) たいよう (3) かんしん
 - (4) しょくぶつ (5) そう (6) ちゅうい (7) まったか
 - (1) 用事 (2) 温度 (3) 列車 (4) 面 (5) 遊園地
 - (6) 着事 (7) 運 (8) 屋根 (9) 車根 (4) 面 (5) 遊園地
- 3 (右から順に) (1) 2・4・1・3 (2) 4・3・1・2

【解説】漢字のことは「一度ひらがなに直して考える。国語辞典では、ことばは五十音順にならなくて、さらに、清音・濁音・半濁音の順にならなくて、ことばを確認しよう。また、「ポット」のように長くのばす音は「ポット」と読むものとしてならんていることにも注意する。

- 7 (1) ① 道具が足りなかった。それで、直すことができなかった。
② 道具が足りなかったで、直すことができなかった。
① 雨がふり出した。だが、かさを持っていなかった。
② 雨がふり出したが、かさを持っていなかった。
- 6 (1) ① どれ (2) こ (3) あ (4) そう
- 5 (1) ① ア (2) イ (3) エ (4) オ
- 4 (1) ① 十 (2) 十四 (3) 十四 (4) 九

- 【解説】(1) 「それで」の代わりに、「だから、そのため」などでもよい。
(2) 「ので」の代わりに、「ために、から」などでもよい。
(1) 「だが」の代わりに、「しかし、でも」などでもよい。
(2) 「が」の代わりに、「けれども、のに」などでもよい。

10 ヨースケくん (2)

- P 43
- (1) 体重 (2) 服 (3) 終 (4) 童話 (5) 談
 - (6) 都 (7) 進

- 【文章たんけん】
P 44
1 問い1 川の水 問い2 うごく・止まる 問い3 ア
問い4 われに返ってあせる気持ち。(あわてる気持ち)
問い5 ア

【解説】
問い3 倉橋くんは、ヨースケくんがとても長い間川をながめていたことに対して「おまえも、ひまなんだなあ」と言っている。
問い4 学校に行くところだと気づくと、ヨースケくんが「あわてて川岸からはなれ」たことからわかる。
問い5 ヨースケくんは、倉橋くんと言われるまで、長い時間がたつたことに気づかなかったのである。文章全体から、ヨースケくんがむちゅうになつて川をながめていたことをとらえる。

- P 46
- 【ことば・コトバ・言葉】
1 (1) あれが・学校です
(2) ぼくは・遊ばす
(3) 花は・大きい
2 (1) ウ (2) イ (3) エ (4) ア
(1) かめを たすけました
(2) くまですもつを とりました
(3) かばちのばしやに のりました

9 ヨースケくん (1)

- P 39
- (1) 死 (2) 間 (3) 放送部 (4) 鼻 (5) 返事
 - (6) 悪人 (7) 放

- 【文章たんけん】
P 40
1 問い1 (1) カフェオーレ・すこいおい
(2) いつもは川底のミソソバのしげみのまんなかを、深さ十センチほどのきれいな水がながれているだけだ。
問い2 (1) びっくりした
(2) ちょっとこわいような気がした
(3) だんだんおもしろくなってきた
問い3 ウ
問い4 いつもは、ごくごくおとなしい川が、お酒によっぱらって、大さわぎしているみたいだ。

【解説】
問い1 「深さ十センチほど」⇩「川幅いっぱいにあふれて、すこいおいさおいで」「きれいな水」⇩「カフェオーレ色の水」という大きなちがいをみて、ヨースケくんはびっくりしたのだ。
問い2 気持ちを表すことばをさがしながら文章を読もう。(2)は「わ、わ川のなかをのぞいてみた」から気持ちが変わるが、答えとなるのは、同じ気持ちをあとで説明されている部分。
問い3 川の水のことばかり説明されていることからわかる。
問い4 たどえを表す「くみたいだ」ということばに注目する。

11 食中植物のひみつ

- P 47
- (1) 庭 (2) 皮 (3) 調子 (4) 金庫 (5) 橋
 - (6) 皿 (7) 洋食

- 【文章たんけん】
P 48
1 問い1 ア
問い2 ・めつたに雨のふらない砂ばく
(雨はふっても)養分のすくないやせ地
問い3 水分や養分のおおいこえた土地
問い4 水分が外にでる・蒸・水分
問い5 (1) プランクトン
(2) 葉・捕虫器・消化液・養分

【解説】
問い2 直前の段落に書かれている。
問い3 「このようすみにくいところ」は、直前の「そんなところと同じものを指しており、めつたに雨のふらない砂ばくや養分のすくないやせ地のことを指していることをまずとらえる。
問い4 サボテンは、めつたに雨がふらない砂ばくで生活しているのて、水分をたくわえるくふうをするので生きていくことができています。サボテンの生活するしくみは、——線③をふくむ段落とその次の段落に書かれています。
問い5 食中植物は養分のすくない土地で生きていくために、養分を何から、どのような方法で吸収しているのかを読み取る。